



こまくさ

教育目標～夢に向かって やさしく!かしこく!たくましく!

令和7年度

9月8日 No27

仙北市立生保内小学校
学 校 報

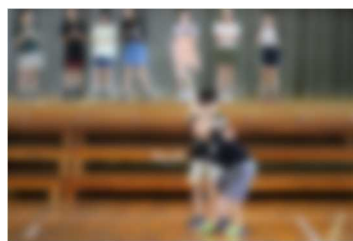
生小ドリームフェスタ2025に向けて

フェスタのテーマ

『楽しく・元気に・最高のドリームフェスタ 2025』

いよいよ「生小ドリームフェスタ 2025」が今週末に迫り、各学年の練習も気合いが入ってきました。先週から「こまくさ」で演目の見どころを紹介してきましたが、今回は3年生と5年生の発表の紹介をします。

3年生・にじ学年の演目は、表現：「祭りだ！わっしょい！」です。北原白秋の詩「おまつり」から幕を開け、言葉のリズムと情景が観客を祭りの世界へと誘います。その後、「花笠」「エイサー」「竿燈」の3チームに分かれ、それぞれの祭りの特色を生かしながら、明るく元気いっぱいにステージで披露します。足先から指先まで意識を集中させ、全身を使った力強い動きで、祭りの醍醐味を観客に届けます。日々の練習にも真剣に取り組み、体育館には大きな声と熱気があふれていました。その姿からは、伝統文化への関心と理解を深めながら、将来その継承の担い手となることへの期待が感じられます。そして、フィナーレでは全員で踊る「ソーラン節」が舞台をさらに盛り上げ、力強く一体感のある演舞で締めくくられます。3年生の熱意と努力の結晶が、観る人の心に深く響くことと思います。



5年生・トライ学年の発表演目は、劇：「なんでも引き受け株式会社」です。「世の中には、めんどくさいことがたくさんあります。もしも、そんなことをすべて引き受けってくれる会社があったら…どうします？」という問いかけから始まるこの物語には、面倒なことを代わりにやってくれる

「なんでも引き受け株式会社」が登場します。子どもたちはその会社を使って楽をしようとしています

が、使えば使うほど「なぞのポイント」がどんどんたまっていきます。そして、ポイントが1000に達したとき、何かが起こる…というドキドキの展開が待っています。物語の最後には、「誰かにまかせるのではなく、自分たちで努力して解決することが大切」というメッセージが込められています。今年度、5年生は高学年として、6年生とともに学校のサブリーダーとして活躍してきました。劇を通して、これから自分たちが進む道を見つけようとしているように感じられます。今のがんばりが、6年生という最高学年になるための準備につながっていくことを期待しています。



※掲載写真は練習風景です

よろしくお願いします

「生小ドリームフェスタ2025」まで、**あと4日となりました。**各学年、思い出に残るステージになるように、最後のひとがんばりをしています。疲れもでてくることが予想されるので、学校でも体調管理について指導しますが、早寝・早起き・朝ご飯等の子どもさんへの声かけを家庭でもよろしくお願いします。